

*EspressChart*

## 実使用説明書

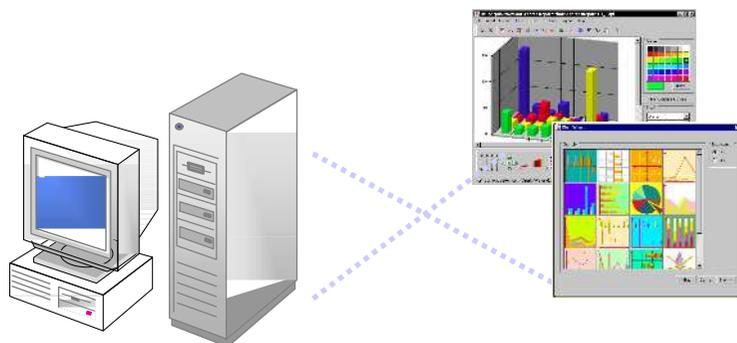


[www.climb.co.jp/soft](http://www.climb.co.jp/soft)

---

# EspressChartのサポートするアプリケーションサーバーとプラットフォーム

**対応プラットフォーム**  
Windows 9x, 2000, XP, NT, 2003  
Sun Solaris, Linux, HP-UX, IBM  
AIX/AS400



**対応アプリケーションサーバー**  
Tomcat, JBOSS, WebLogic™,  
WebSphere™, Oracle, Sun

# EspressChartの生成方法

EspressChartの生成方法は4つあります。



## Javaアプリケーション

EspressChart APIを使用して、Javaプログラミングでチャートが生成される。



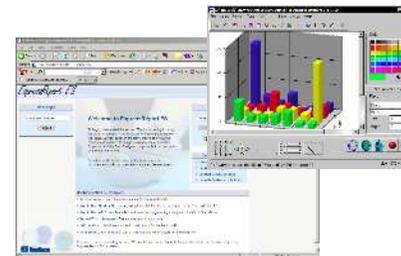
## ウェブアプリケーション

アプレット又はサーブレットでEspressChart APIを使用してチャートが生成される。



## GUIチャートデザイナー

EspressChartのdesigner.batファイルを実行して、ビジュアルなツールでチャートを作成する。



## ERES チャートデザイナー

EspressReport ESのチャートデザイナーでチャートの作成又は編集を行なう。

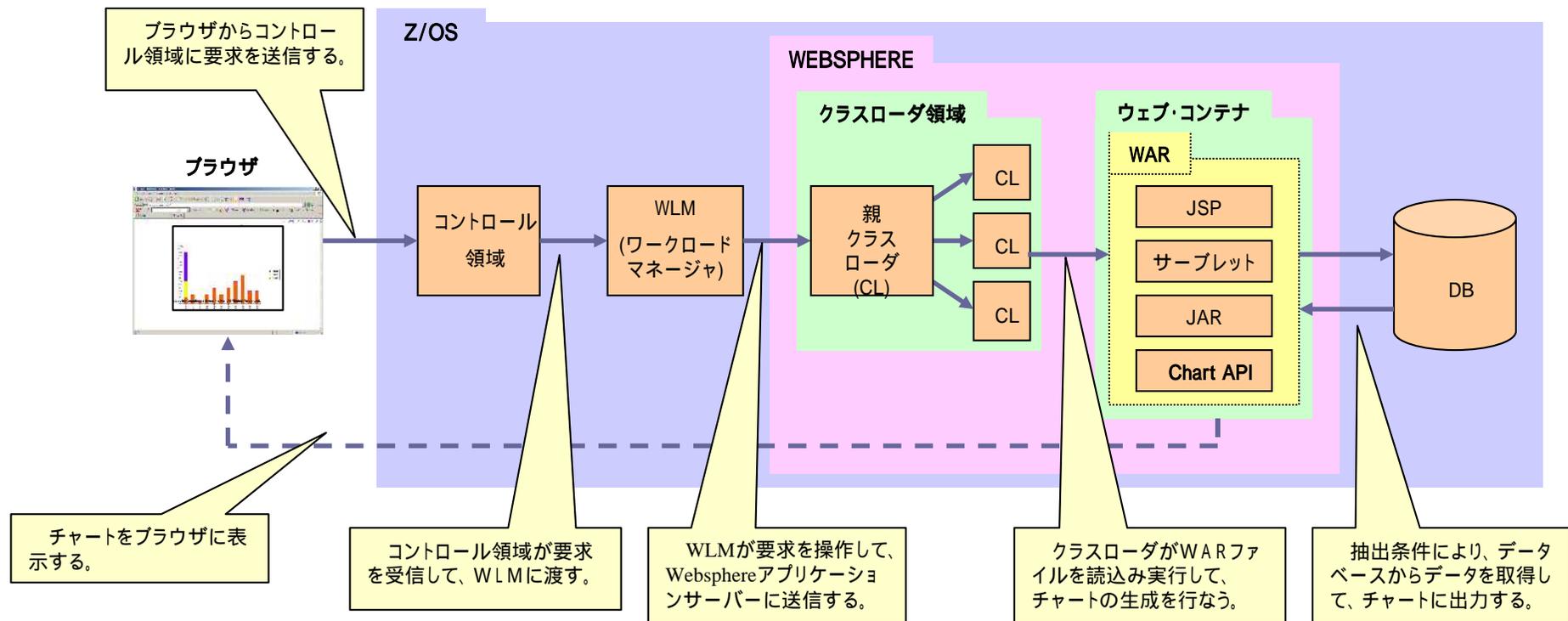
# 業務に対するEspressChart実現の体制

EspressChartの機能を使用したさまざまな作業実績環境を、以下に示します。



## シナリオ1:

プラットフォーム: Z/OS    アプリケーションサーバー: Websphere    データベース: Oracle  
処理: ウェブアプリケーションでチャートを生成する。



# 業務に対するEspressChart実現の体制



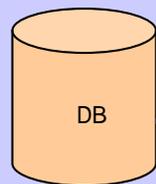
## シナリオ 2:

プラットフォーム: Windows    アプリケーションサーバー: WebLogic    データベース: MsAccess  
処理: EspressChartのDrill-downとハイパーリンク処理を行なう。

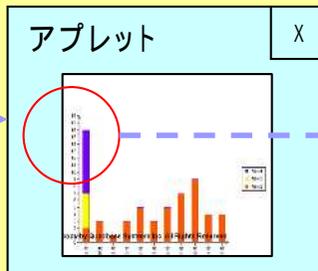
WINDOWS

WebLogic

ウェブアプリケーション

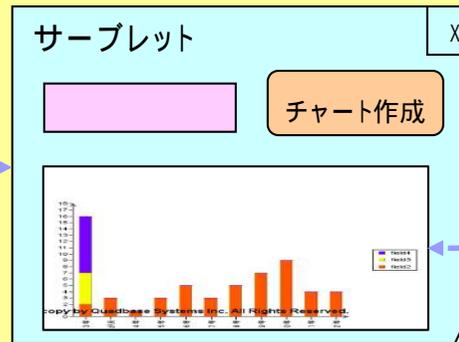


アプレット



サブレット

チャート作成



DBからデータを抽出する。  
Javaアプリケーションで抽出したデータをチャートに変換して、アプレットに表示する。

ハイパーリンク処理:  
チャートオブジェクト毎に設定されているハイパーリンクを押下する事により、チャートオブジェクトのデータを取得する。取得データを抽出条件としてサブレットでチャートを生成する。

Drill-Down処理:  
コンボボックスでチャートに表示するデータに対しての条件を選択する。「チャート作成」ボタンを押下すると、選択した条件によりチャートが生成される。

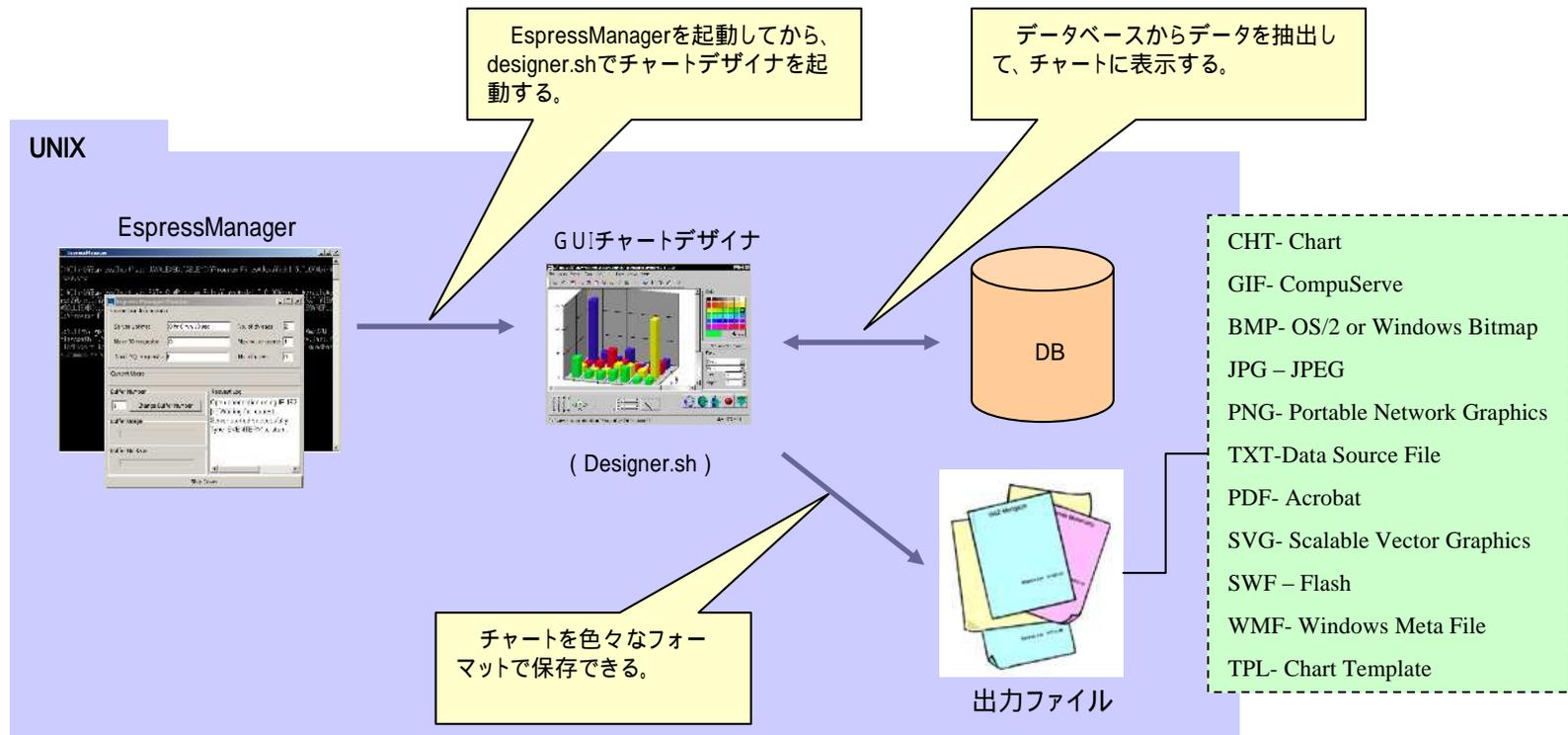
# 業務に対するEspressChart実現の体制



## シナリオ3:

プラットフォーム: Unix    データベース: MySQL

処理: GUIチャートデザイナーで(designer.sh)で生成したチャートを色々なフォーマットにエクスポートする。

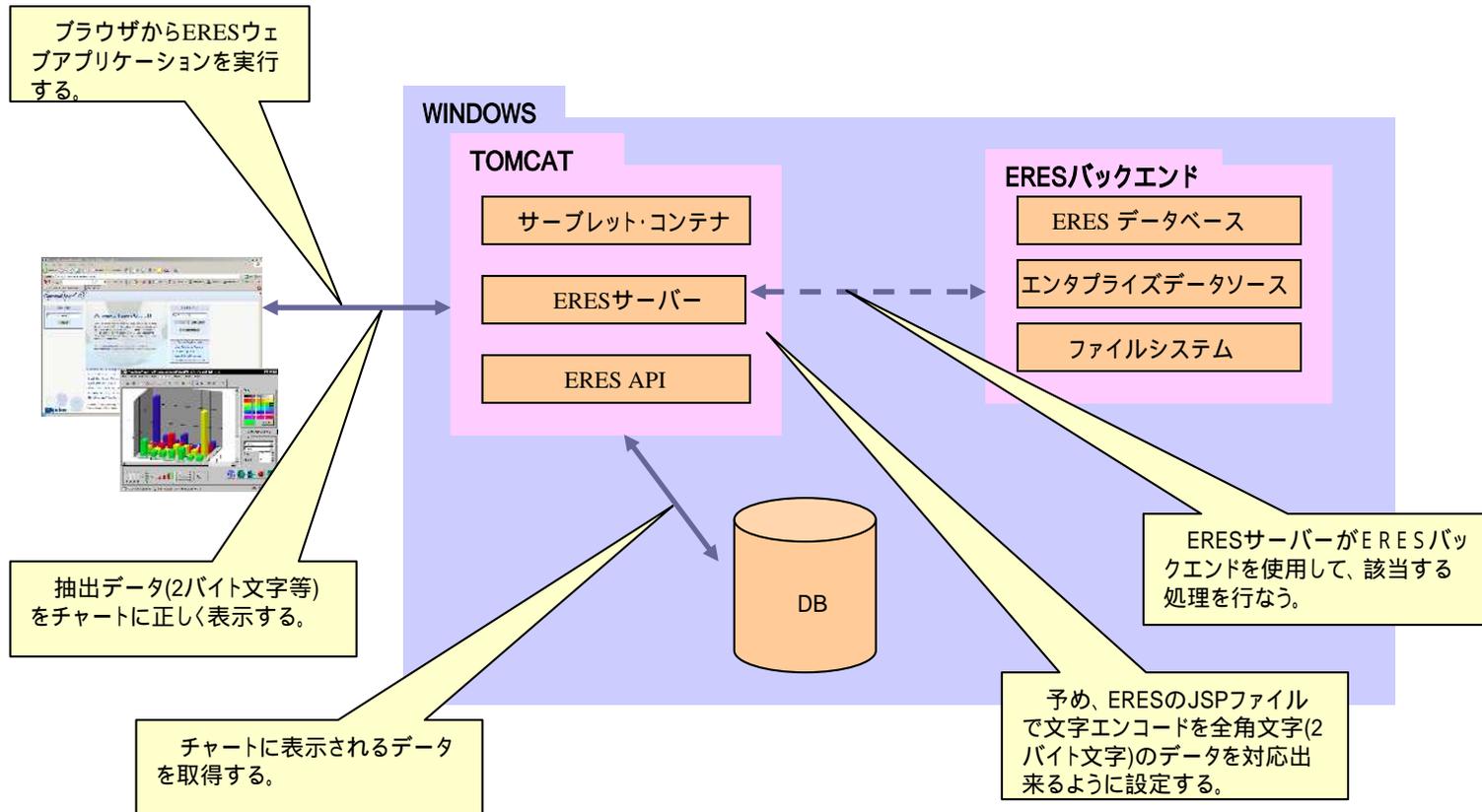


# 業務に対するEspressChart実現の体制



## シナリオ4:

プラットフォーム: Windows    アプリケーションサーバー: TOMCAT    データベース: DB2 UDB  
処理: データベースから取得した全角文字(2バイト文字)データをチャートに正しく表示する。

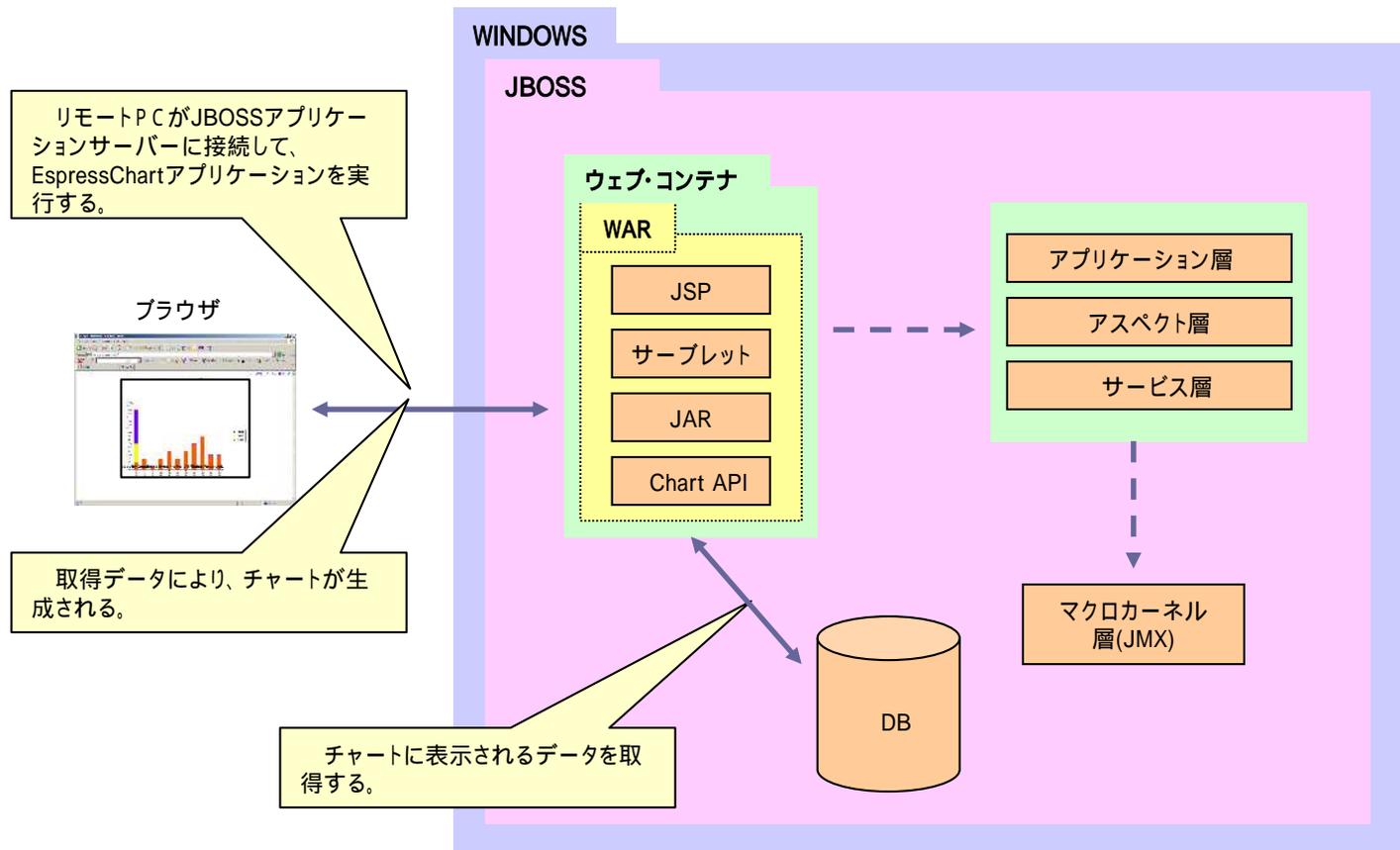


# 業務に対するEspressChart実現の体制



## シナリオ 5:

プラットフォーム: Windows    アプリケーションサーバー: JBoss    データベース: Oracle  
処理: リモートPCでユーザがチャートの作成、編集が行なう。



# 業務に対するEspressChart実現の体制



## シナリオ 6:

プラットフォーム: AS400    アプリケーションサーバー: SAP    データベース: MaxDB

処理: EspressChartデザイナーを使用して、SAPMaxDBデータのチャートを作成する。

